

東田利町報

No.289 昭和54年4月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1日発行



No

289

4

1

《巣立ち—小さな胸に大きな夢》

弥生3月は、巣立ちシーズン。

3月23日にはみどり保育園、26日には永慶保育園の卒園式が行われ、合せて81名の園児が園舎を飛び立っていました。

園長先生から、「みんな元気なよい子になりました。4月からは小学生です。りっぱなお兄さん、お姉さんになってください…」と、一人ひとりに卒園証書が手渡されると、小さな胸には、もうすぐ1年生の「大きな夢」がふくらんでいるようでした。(写真…みどり保育園で)

健康できれいな町に

54年度 一般会計 当初予算は19億3百万円

施政方針要旨

昭和五十四年度当初予算を中心に審議する町議会第二回定例会は三月十二日に招集され、会期を同月十九日までの八日間と決めたあと、小松町長が五十四年度の施政方針を、佐藤教育委員長が教育方針をそれぞれ発表、続いて八議員が一般質問を行ない、収入役の選任についてなど二議案を審議、原案どおりに可決して本会議一日目を終了しました。

今議会では、追加案件二件を含む二十一議案が上程され、いずれも原案どおり可決して同月十九日に閉会しました。

以下、町長の施政方針、一般質問、新年度予算など議決された案件の概要について紹介します。



内外情勢が多難である昭和五十四年度、国の財政は四十億の国債依存、国際情勢の不安、経済の外圧等が地方財政への影響が懸念される折、本町に於ては昭和五十四年度予算案として、歳入歳出十九億二百九十二万二千円を計上し本日、議会に提案した次第であります。

積極的転作へ 一歩進む対策を

昭和五十四年度の町政で、先ず課題となるものは、水田再編対策であります。

昭和五十三年度は町民のご協力によりまして、百十三区の実施率となりましたが、本年度は、積極的転作へ一歩進

む様に、昨年の経緯を顧りみて対策を立てて行く考えであります。

六十九・一歩の ほ場整備を計画

県営圃場整備は、五十三年度まで九億六千七百六十万円を投資し、全体比五十二の進捗であります。

五十四年度は四億七千万円の予算要求をし、残面工事全部六十四区を終了し、暗渠、水路、道路についても計画しております。

他の制度による圃場整備は、新農業構造改善事業として高屋、沼地区に四・七区、土地改良総合整備事業で宮上地区、〇・四区を計画しております。

〇二次農構

北部地区は完了 中・南部は一年延長

第二次農業構造改善事業は五十三年度で七十八・九の進捗です。五十四年度は一億六千八百万円で、タバコ乾燥棟、パイプハウス、農機具、格納庫等を計画しました。

北部地区は五十四年度で、

全事業終了。中部は、タバコ畑の面積割当上一年延期。南部は五十五年度完了予定であります。これもタバコ畑の割当から、一年延長の可能性もあると思われます。

大下の道路・橋 用水路等も改良

新農業構造改善事業、五十四年度は先程申し上げた、高屋、沼地区の圃場整備と、大下橋の改良等一億三千百万円を予定しました。

ミニ総合パイロット事業は、これまでの(52・53年度)進捗三十八区。五十四年度は、アクト圃場整備の換地事務、アクト農道、市道台橋梁、集落道大下線、大下用水路等、七千万円を計画しております。

石滝線は農道 として整備

土地改良総合整備事業は、宮の前、上里地区の土地整備、法内地区の土地整備、石滝線を農道として整備、等々で一億二千万円を計画しました。

地域農政特別対策事業は、農地法以外をもって、部分的

な農地移動を可能にする対策、農業施設に對しての補助等の事業であり、三千五百万円の事業計画であります。

沼・新沢に 簡易水道を計画

第二期山村振興事業は、五十四年度で四年目を迎え、完了年度となります。

この事業によって本町は、有鄰館、宿育苗施設、法内のミニライズセンター、高村・黒沢・奥ヶ沢簡易水道、団体営圃場整備の適用基準の緩和、公共事業の補助増等によって本町の行政水準の向上に大いに役立ったのであります。

本年度は、沼地区、新沢地区に簡易水道を計画しました。

畜産

優生計画と飼料

対策を基本に

畜産について申し上げます。昭和四十八年、肉牛は九百九十頭でしたのが、現在千八百八十六頭という数字が出ております。減反の為、又市場価格等から、肉牛への意欲が高まっております。

基本的な方向は、先だつての吉田場長の講演にありまして、優生計画と飼料対策を継続的に進めて行く事と思っております。

乳牛百四十五頭。飼育農家二十一戸であります。牛乳の過剰問題がありますが、本町の酪農農家は試練の波をくぐ

つて来た方々でありますので、これに對して参れるものと信じます。

畜産振興には、町は最大可能な協力をして行く考えです。

森林組合と協力し 新制度の森林総合 整備事業も検討

本町の山林原野、合せて一万二千八百二十区、中、山林は一万五千五百七十七区。人工植林率四十八・八区、内訳は国有林七十五区、私有林四十七・六区、町有林三十七区であります。

現在、材価が低く、林業が低迷し、切るに切られず、植えるに植えられずという状況であります。林業は百年の計であり、経済性の他、環境保全の公益性も考えなければなりません。

森林組合と協力し、現在実施中の中核林業の制度を活用し、又新制度の森林総合整備事業についての準備も検討したいと考えています。

特用樹の桐であります。五十年の補助によつたものは、五十年から五十三年度まで六十二区、一万五千本。五十四年度は約三千本、十一区の植栽が予定されております。

町単独で奨励して来た分は、五十年から五十三年度まで十八区、千五百本植栽され、四人の方々町の補助を利用してあります。

今後、植栽の現況を把握し

て、本町の特用樹として成功する様指導したいと考えます。

町道改良十一路線

舗装は十路線

八塩開拓道路を要望

道路、橋梁の改良については次の各線に、それぞれの改良事業費を要望しております。

- ①国道蔵工区 ②同板戸地区
- ③県道羽後向田館合線 ④同神岡坂部線 ⑤同老方沼館線
- ⑥同山崎鴻屋線 ⑦同黒沢線
- ⑧国県道局部改良、側溝改良三十カ所。

農林省、林野庁の公共事業は次の線について事業費を要望しております。

- ①根小屋線・軽井沢線 ②石高農道 ③須郷農道（新規事業）
- ④八塩開拓道路（新規事業） ⑤土場沢林道舗装 ⑥軽井沢林道舗装 ⑦ボツメキ林道（新規事業） ⑧沢中線

単独の町道改良路線は十一路線、舗装十路線を計上しました。路線名は予算書に記載されてありますので省略します。

舗装工事中、湯出野線は特改四種の国庫補助を要望しております。

以上の様に、道路、橋梁の改良、新設は、国県の各制度を徹底的に活用して実施します。

精神目標を持った

住民行政を

民生、衛生、社会教育を住

民行政という名で呼ばせて頂きたいと思ひます。

人は誰でも、肉体も精神も健康であつて、清潔な美しい環境に住みたい願望をもつています。

五十四年度は、町民は健康で町がきれいになる行政を進めたい。更に敷衍して町政に次のテーマを持ちたい。

- 1、みんながことばをかけ合う明るい心の町
- 2、ミエやムダを省いて、交通安全を正しく守る町
- 3、変る時代を乗り切る努力と工夫をする町
- 4、老人を敬い。子どもを大切にすることが甘やかさない、教育と福祉の町

この様な主旨を相互に呼びかけ合つて、教育、生産、健康管理、防災、福祉の関連の中で精神目標を持った住民行政を持ちたいと考えますので、ご検討をお願いいたします。

社会教育と一般

行政との連携を

教育行政は教育委員会の所管ですが、私からも基本的な事項について申し上げたいと思ひます。

普通行政は、教育上の物理的面の担当が原則であらうと思ひますが、多少の逸脱はお許し願ひます。

中学校は、施設、教材とも一通り整備されておりますけれども、常に学級減におびやかされてゐる事。近くに競

い合う他校を持たない事。教師の大部分が通勤であるというやむを得ざる実情、これらのマイナスをどう補うかが課題であらうと思ひます。

小学校は教育にふさわしい環境の整備を実現すること。その為に、町は教育委員会の方針に添つて、財政面、物的面の配慮に不安がない様に対応しなければならぬと思ひます。

社会教育は、現実社会の生活人を対象するものであります故に、一般行政との関連が必要であります。先ほど申し上げた住民行政に於ても、農林行政に於ても、相互協力が必要になつて参ります。

町民の時代認識を深め、現実社会の対応性を高めさせる必要があると考えます。

学校教育に於ては、生徒の進路の選択について、現実社会からみた配慮も必要ではないかと思ひます。

教育委員会、教育研究所の設置を計画しております。時期に適した施策と考えます。

自治の根幹は

集落にあり

民主主義は地方自治にあり、地方自治の根幹は市町村にあると申されてはいますが、長い生活の歴史の中で培われた、実際の生活の場である集落にこそ自治の根幹があると思ひます。

昨年、部落会を自治会と改

めたのは、この様な考えが基本にあつたのであります。幸い、名称変更の賛成を頂きましたが、集落運営に於ては、生活の多様化とともに崩壊様とする自治意識に関心を持つ必要があるかと思ひます。

出かせぎには

根気強い対策を

出かせぎ対策は、現況に於て、安全就労、技能取得、雇用保険事務の便宜、出かせぎ本人、留守宅相方の精神的環境の配慮であります。

社会構造の問題でありますから、基本的な問題は政治に要請しながら、根気強く対策をして行くべきと思ひます。

中小企業振興基金の額を倍額に

商工業対策であります。

農林業には多額の予算を置くが、商工業には予算が少ないといわれます。各町村の予算面からみますと指摘通りでありますけれども、国の財政からみますと必ずしもそうでないものであつて、昭和五十四年度の国の財政投融資の資金計画の数字をみましても、中小企業金融公庫の資金は一兆六千億、農林漁業金融公庫の資金は六千四百億であります。

この数字は、商工業と農林漁業に対して国の行政の手法が違ふという認識には役立つかと思ひます。又農林業の経済力が循環して商工業のプラスに

町長日記

今冬は雪が無かつたせいか、春を迎える感激が少ないう様に感じる。エイプリルフール（四月馬鹿）は、ヨーロッパの長い冬の春待ち達しきから生れた習俗ではなからうか。

我国の四月は、新年度という四角張ったイメージで役所、企業、学校もスタートする。東北の農業は、自然の循環で、新年度といふべき時期である。東由利町は、予算編成、予算議会というトンネルを出、人事異動も終えて、新年度へ始動する。

一九億二百万円の当初予算は、人口六千人の町村にしては大型である。この様な大型予算を組んで大丈夫かと心配される向きもあると思うが、この予算の

すが国と県の補助金になつてゐる。本町は国でいえば、開発途上国家の様なもので、道路、農業施策をはじめ、各社会資本の充実に努めなければならぬ条件下に置かれてゐる。この考へで編成した予算であり、議会もこの方向で協賛して下さつたものと思ふ。

圃場整備の進捗の理由、省

力の必要、土地への思惑がない、土地改良制度が優れていること等であるが、基本には時代認識がある。

反面、急速な基盤整備、構造改善に対する不安もある。それは農家の心の限界、行動の限界を越えた事業になると、農家にとつて良い結果になるはずの事業でも、現在では踏みきれない感情が伴う。このためには町の行政の方向を理解して頂く

努力が大切である。事業計画の検討、広報活動、社会教育との関連を掘下げて、町民の要望と行政の一致をみるよう心掛けなければならぬ。

本町の農近ゼミの諸君が全国青年農業者会議で、農林水産大臣賞を受賞した。この朗報に何を学び取るか。私は「自信」「自覚」ということではないだろうかと思ふ。昭和五十四年度は、東由利の各分野に自覚と自信が湧きあがる様、相互に努力したい。

負うた子に教えられたい。いうことがあるが、子に教えらるる親もまた幸福である。

なるというのは一面の理論ではあるが、全体の商工業振興にはなりません。

商工業にはそれなりの対策が必要であり、その為には、商工会の構想に町が協力するという形で進みたいと考えます。

昨年は、町の原資の金融が利用されておりますので、本年はそれを倍額にする予算計上致しました。

商工会館建設の町補助金は、設計等が具体化の時点に於て計上提案したいと思っております。

永慶保育園改築事業に補助センターの充実を

永慶保育園改築事業の補助金を計上しました。町としての基本的な考え方は、町は法人が建築費として借り入れした債務の負担をするというのであります。借入金は一千万、他は国の補助、法人の自己財源でありますけれども、基準面積、基準建築費、基準補助金からして、国の事業採択が決定しないと正確な数字の算定が出来ませんので、現在のところ予算書の金額を計上し提案をいたしました。

農業総合指導センターは、本町の農業指導の責任態勢の中核であります。町民に信頼される様に、農協と充分密接な協力態勢をとり、機能の充実と発展を図って行きます。どうか鞭達、指導、又苦言を

お願いいたします。

五十四年度から過疎対策協議会を設置

先般、協議会でお話しを致しましたが、全町の各団体と関連を持った「過疎対策協議会」を設置して、過疎対策の態勢を全町的に持ちたいと考えています。

圃場整備事業のアフターケア、又、水田利用再編対策として、暗渠排水事業を五十四、四鈔を計画しております。

総額十九億円を超える大型予算

昭和五十四年度予算総額は十九億二千九百九十二万二千円、昨年比十九・六増であります。

歳入の町税は一億一千三百二十万二千円、昨年比十一・四増、交付税の総額の予想は六億八千万円、本予算には内六億五千万円を計上しました。財源比率は、国庫支出金三十三、地方債十六・六、一般財源四十四・五、その他四・八であり、歳出の公債費は一億三千万円となっております。

町の財政調整基金は、五十三年度の繰り出し、繰り入れをし、五十四年度の現予算案の繰り出しをして、残高一億五十四万円の予定であります。

町民の期待にこたえるべく努力を

次に、執行態勢について申し上げます。

昨年、お陰様をもちまして庁舎内外の整備が完了し、庁員が快適な環境で、一通りの条件の中で執務をさせて頂いております。私の目から見ても本町の職員の執務状態は他に比較し、決して遜色のあるものではなく、むしろレベルが高いのではないかと、我田引水かも知れませんが、そういう具合に感じております。

執務態勢を一口に申し上げますと、適材適所に配置して、公務員の自覚を徹底し町民の要望に応えた町行政の分担業務をやる、とこう申し上げると満点の説明になるわけですが、しかし、人間ですの必ずしもそういうわけにはいきません。この人をこっちにやるならもつとよくなるだろう、というようなことがありまして、やはり限られた人員の配置ですの、そこに問題がでます。

私は、基本的に、標準能力というものは誰でも身につけなければならぬと考えます。そうでないと人事交流というものとは行き詰って行くということを基本に、若い諸君の教育を考えています。

それから、公務員という自覚は、昔から、すまじきものは宮仕え、ということばがあります。普通の自由業と違い、普通の自由業であれば笑って済まされることも公務員であれば笑って済まされません。

やはりこういう自覚をお互いもつと持たなければならぬということなのです。

それから、町の将来を考えると、いろんな社会資本を投資して我々は物的条件を揃えていく、同時に町の将来は、町職員の能力に係る事が大でありますので、教育環境というものを考えながら我々執行部の職員は真剣に、町民の期待に沿うような勉強をしなければならない、と、そうさせたものだと思えますので皆さんのご理解を頂きたいと思っております。

以上、長々と申し上げましたが、細部につきましては取り落しの点も多々あるうかと思いますが、一通り五十四年度行政の方向を申し上げ、また、予算案を提出してありますので、充分ご検討を頂き、ご協賛たまりますようお願いいたします。

八氏が一般質問



小学校統合問題など

三項目を問う

長谷山喜市郎議員

小学校統合問題は、老朽校舎解消、複式学級回避、給食完全実施等、昨

今の世論の推移からして、機が熟していると思うが、町長 これには情緒的な問題

国・県・町道の傷みに対しての補修と、合せて、未舗装道路に砂利を十分

母と子会

胸はずませて、入学を心待ちにしている子どもたち——お母さんとし

ては、期待と不安の入りまじった気持ちでしょう。ことに、初めて子どもを学校に通わせる家庭では、

「勉強ができる素直なよい子」
「なつてほしいというのが、率直な願いだと思ひます。」

と、いつて、文字や数字をむやみやたらに教え込むのも、考えものです。それがかえって子どもに妙な優越感や慢心を起こさせ、入学後に悪影響を及ぼさな

生活集団よりも勉強に慣れさせること

いとも限りません。まず何よりも、子どもを学校という集団生活になれさせることが先決です。そのためには、子どもの心をリラックスさせ、

健康状態に気を配り、みんなと仲よくやつていくために必要な、学校生活の規則やエチケットを身につけさせましょう。もう幼稚園時代の甘えや依頼心は許されません。用便、洗顔、食事のしかたはもちろん、「はい」「いいえ」「すみません」などは、きちんと言えるようにしておきましょう。

また、登下校時の交通ルールについては、通学路を前もって、いっしょに通つてみて、危険なところはよく教え、一人で往復できるようにさせておきたいものです。

お母さんは、学校を信頼し、子どもには、学校は楽しいところなんだという気持ちを持たせるようにしてください。

もあるのです、いきなり統合というわけにはいかない。住民が納得できるように客観状況を作っていくのが町政の基本姿勢と考える。

いれることができる予算措置を。

町長 町道については、要望のように実施したい。県道については、県が維持管理しているの、土木事務所にお願いし、期待に沿うよう努力する。

県営圃場整備事業の工事完成田の中には、不完全なものもあるというが、



町職員の研修など

三項目に質問

長谷山二郎議員

町職員の資質向上のため、どのような研修を行っているか。また、県や海外等に一定期間派遣して勉強させてもいいのではないか。

町長 県等への派遣職員については、今の状態では無理と考える。

県の自治研修所における研修には、積極的に職員を派遣し、研修させている。また、町独自には、庁内で月二回の研修プログラムを組んでいるが完全実施には至っていない。今後は出来るだけやっていきたいと考える。

リースセンターの低利用率の背景には、請負わせることの不安、秋の収穫は自分でやりたいという本能など、町民の性格的なものとしてなじめないものがあるのではない

手直し工事をさせることはできないものか。

町長 一旦完成して引き渡されたものの手直しというのは難しいので、問題が出たり、あるいは出そうになったりしたらそれ以前に町に連絡してほしい。そうすれば、町でできる範囲で問題解決に努力したい。

か。また、自信を持った語りかけの不足や農機具の販売競争などに、行政、農協の対策の不足が指摘



スキー場整備など

二項目を問う

長沼久男議員

大平スキー場に、ロープトウと駐車場を設置する考えはないか。また、八塩スキー場に至る道路の整備を進めるべきでないか。

町長 スキー場については、将来を見通した基本的構想を持つべきと考え、地元の要望、スポーツ団体の意見等を聞きながら方向づけをしていきたい。

粗大ゴミの処理のために、年数回でも町が収集処理すべきと思うが。清潔で住みよい環境づ

されるのではないかと思うが、町長の考えは。

町長 確かに指摘されるようなことはあると思う。町としては、もったいなくした計画性をもって、町民が対応しやすいようにしていきたいと考える。

小学校問題を明確にし、町政のエネルギーを町民所得の向上をめざす産業振興に全力投球する体制をつくるべきではないか。

町長 小学校問題については、一日も早く解決するようお互いに願うものであるとともに、農家が求めているものについては皆さんともよく協議し、きめ細かな対応をしていきたいと考える。

町長 衛生看視員については、今後の検討課題としたい。粗大ゴミに関しては、処理場を見つけないならならぬことで、現在、土地所有者と交渉中であり、前向きに進めている。収集回数については、現況をみた上で、回数、方法等について検討したい。

家畜診療体制など

七項目に質問

小野作右工門議員



出羽丘陵開発事業の中で、本町に関連する事業としてどのような計画をもっているか。

町長 同開発事業については、特別の立法措置、特別の事業がある様に受け取られがちだが、実際はそうではなく、各町村で実施している事業そのものが、出羽丘陵開発の実績につながるものだ。

今回予算措置されたものは農地開発に係る調査費と考える。

秋田新空港の開港に伴ない、本町に関連する道路網の整備促進のための今後の見直し、及び周辺町村との話し合いなどは行っているか。

町長 改良促進のための期成同盟会を設置するべく、本町が提唱して関係数町村に呼びかけを行ない、現在、発足に向けての事務が進められている。

西山線の改良計画と、西山から蔵にかけての団地開発計画についての見解と見通しは。

町長 西山線については現在、国費をつけるための準備段階中である。団地開発計画については、まだ先のことを考える。

和牛の増加等からして、町独自の診療体制の充実が急務と思われるが。

町長 原則としては現在ある診療体制で進めるものだが、今後の課題として、当事者の期待に沿うよう検討していきたい。

家畜の増大による公害防止並びに設備費の軽減、後継者の要望にこたえるためにも、畜産団地造成が急務と思われるが。今後の方針は。

町長 団地造成のためには、道路等の条件整備をしていく



青年交流など

二項目を問う

阿部 剛議員

本荘由利広域圏における業務はややもすれば縦割りの感が強い。もっと隣接町村とも連携をとり、住民が切望する産業開発、特に工場誘致等、多様化する社会情勢をふまえた発想が必要と思うが。

町長 産業開発、工場誘致等を広域的に実施するということはなかなか難しい問題で、まず町内での受け入れ体制、条件整備をすることだと考える。

べきと考え、そうした計画を立て、実施して行きたい。

宿、袖山小学校の統合、及びその他四校の統合の時期、並びに現在の三校原案で進めるべきか、又、今後の諸情勢により計画の変更はありうるか。

町長 先に答弁しているような方法で、早く結論を見出すよう皆さんと検討し、努力して行きたい。

中学校の給食も、諸情勢からして一日も早く実現が必要と思うが。

教育長 教育委員会としては早期実現が望ましいと考えている。がしかし、当面の問題とされている小学校問題と二者択一を迫られれば、小学校問題が先と考えている。

町長 町としてはそうしたことに、積極的に、物的な指導なりをやりたいと考えている。ただ、町が先に立つてやるのではなく、青年自らが積極的に、行動をしてもらいたいと思う。



坪倉林道の 整備改良などを質問

軽井沢線工事中の迂回路として、地域住民の生活道路として、坪倉林道の整備改良を促進する必要があると思うが。

小野昭一議員

町長 工場の状況、道路の状況等、十分現地調査してそれなりの対応をしていきたい。



旧法内小の学校林 について問う

また、町と地域との契約内容は、

町長 名目上の管理は町となつていますが、実質的には地域



学校給食など 二項目に質問

小野要造議員

学校給食に対する要望が高まってきている現状から、学校統合と切り離しても推進しなければならぬと思うが。

町長 給食施設は、各学校に直接設置すべきと考えるので、小学校統合と切り離しては考えられない。

(順不同)

豊かな魅力ある町づくりを

限られた財源を有効利用

昭和五十四年度の町予算が決まりました。

財政の硬直化が懸念される厳しい経済情勢下にあつて、限られた財源を最大限有効に利用、産業基盤の整備や、道路の改良、舗装を中心とする生活環境の整備、住民福祉の拡大、教育の充実など、豊かな魅力ある町づくりを目ざした積極的な予算編成がなされました。

一般会計当初予算総額は十九億二千九百九十二万二千円で、

前年当初予算に比べ三億一千七百九十九万一千円、十九・六割の増となつています。

また、住民一人当りの当初予算額(三月一日現在の人口で除す)は二十九万五千八百

九十八円、前年比五万一千八百九十八円、二十一・三割の増となつています。

以下、歳入と歳出の概要についてお知らせします。

歳入 自主財源は全体の14・8パーセント

国庫支出金は六億三千万円

款項別に歳入を見てみると、自治体を運営していく上で最も基礎となる町税は一億一千三百二十二万二千円で、予算全体

の五・九割を占めています。地方交付税は歳入の中でも最も大きな割合を占め、三十四・二割にあたる六億五千万

円が計上されています。分担金及び負担金は五千三百六十六万を計上していますが、これは大部分が農業関係事業などにおける受益者の負担金等で、全体の二・八割となつています。

国庫支出金は、全体の七・五割、一億四千三百四十六万五千円となっており、前年に比べ一〇・二・五割の増となっています。これは、宿小体育館等建設事業に係る補助金の増等によるものです。

県支出金は、地方交付税に次いで大きな歳入割合を占め、四億八千五百三十六万四千円で、全体の二五・五割となつています。

なお、これら国、県の支出金は、各種事業等に対する補助金がほとんどです。繰入金は、財政調整基金からの繰入れで、全体の二・〇割にあたる三千八百万円を計上しています。

国民健康保険事業……	370,520千円
黒 瀧 診 療 所……	2,334千円

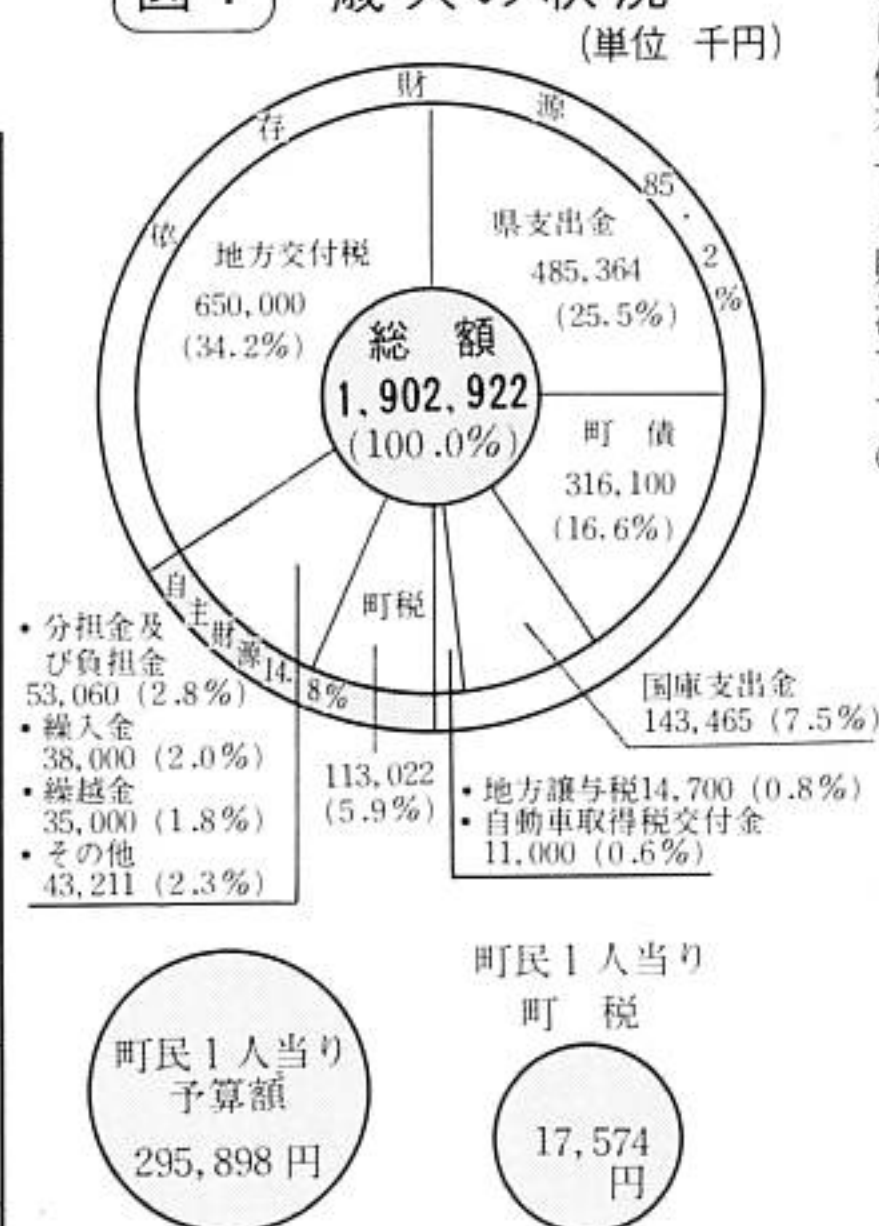
簡易水道事業……	23,935千円
玉 米 財 産 区……	983千円

特 別 会 計 の 予 算

昭和54年度 主な事業の実施計画

事業名	事業費	事業の概要
●民生費	千円	
永慶保育園改築補助	3,850	
老人居室整備資金貸付	3,000	5戸
●農林水産業費		
産業道路整備	5,000	
地域農政特別対策	18,750	機械施設整備
草地開発	72,655	牧道(沢中線)草地改良、造成
畜産環境改善	3,961	バキュームカー1台、攪拌機1台 し尿槽2基
農道須郷線改良	25,755	L=1382.0m W=5.0m
農免農道根小屋線改良	15,735	第1期L=1077.0m 第2期L=780.0m W=7.0m
〃 軽井沢線改良	10,573	L=1440.0m W=7.0m
団体営農道調査設計費	4,850	葎沢線、新沢線
小規模土地改良補助	1,884	暗渠排水工事
農業構造改善	184,329	圃場、農道橋、近代化施設、整備
農村基盤総合整備	70,700	用水路、農道、農道橋、整備
土地改良総合整備	121,200	暗渠排水、排水路、農道、整備
山村地域特別対策	28,899	簡易給水施設2カ所
農村総合整備モデル計画費	15,000	地形図作成、設計委託等
克雪センター前舗装	2,000	
特用林産物振興対策	4,157	桐栽培、栗栽培
林道ボツメキ線開設	26,294	L=700.0m W=4.0m
〃 軽井沢線舗装	9,518	L=500.0m W=4.0m
公有林整備	14,025	新植0.47ha 補植1.2ha 保育226ha
●土木費		
町道改良舗装	173,846	改良11路線、舗装10路線
●消防費		
消防施設整備	25,402	消防ポンプ自動車1台、ポンプ付積載車1台、 積載車2台、小型動力ポンプ1台、防火水槽5基、 機械置場2棟
災害危険住宅資金貸付	2,000	1戸
●教育費		
宿小学校体育館建築	69,630	鉄筋コンクリート造 633m ²
〃 給食調理場	14,574	〃 102.5m ²
〃 食堂	16,702	〃 150m ²
〃 附属廊下	10,762	〃 102.5m ²
〃 附帯工事費	9,300	盛土、整地、体育館設備
〃 設計管理費	4,000	
●災害復旧費		
林道、道路、河川災害復旧	20,199	
合 計	988,550	

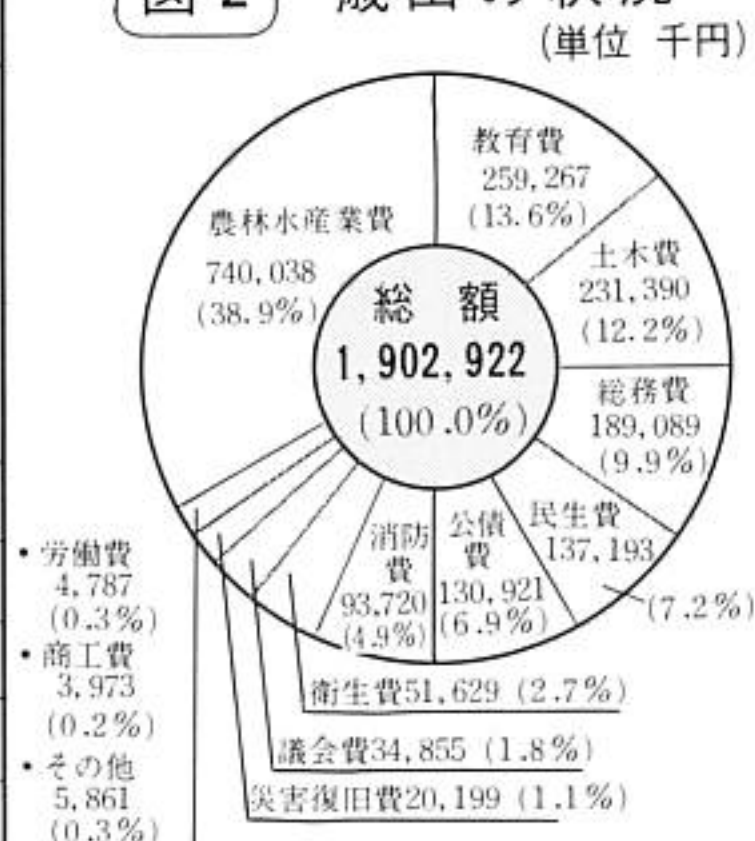
図1 歳入の状況



主財源(町税・繰入金・繰越金・分担金及び負担金・使用料及び手数料・財産収入・寄付金・諸収入)は、二億八千二百二十九万三千円で、全体の十四・八割にすぎません。残り八十五・二割は、国や県などに依存する財源です。

で、五十四年度もいかに国県の補助制度を効率的かつ積極的に導入し、豊かな町づくりを進めているかが、こうした面からもうかがうことができます。(図1歳入の状況を参照)

図2 歳出の状況



歳出

農林水産業費に38・9パーセント

五割が建設事業費に

歳出を款項別に見てみると、最も大きな割合を占めているのが農林水産業費で、全体の三十八・九割にあたる七億四千三百八十八千円、次いで、建設事業費が二億九千九百二十六万七千円、土木費が二億三千七百九十九万九千九百九十九円、教育費が二億三千七百九十九万九千九百九十九円、民生費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、公債費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、消防費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、衛生費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、議会費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、災害復旧費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、労働費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、商工費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、その他が一億三千七百九十九万九千九百九十九円。

図3 性質別歳出状況



費の十二・二割、二億三千三百三十九万九千九百九十九円、このほか、議会費が三千四百八十五万五千円、前年比十一・七割の増、総務費が一億八千九百八十九万九千九百九十九円、民生費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、公債費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、消防費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、衛生費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、議会費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、災害復旧費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、労働費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、商工費が一億三千七百九十九万九千九百九十九円、その他が一億三千七百九十九万九千九百九十九円。

九千円で十五割増、労働費が四百七十八万七千円で十四・三割増、商工費が三百九十七万三千円で四十・二割増、消防費が九千三百七十二万円で十一・九割増、災害復旧費が二千九百九十九万九千九百九十九円、七割増などとなり、建設事業費とともに、福祉や保健衛生、出かせぎ対策、防災、商工業振興、教育振興など、町政全般に配意された予算となっています。

一方、性質別の歳出状況をみると、建設事業費が全体の五十一・八割にあたる九億八千五百六十二万二千九百九十九円、災害復旧費の二千九百九十九万九千九百九十九円を合わせると、昨年の五十一割を上回る五十二・八割となり、昨年に続いて予算の半分以上が「豊かな町づくり」のための投資的建設事業に使われることとなります。

こうしたことから、今東由利は発展途上の中にあるということがうかがえます。

また、人件費は二億九千五百八十八万九千九百九十九円、補助費等は二億一千二百六十三万三千円で十一・二割、次いで物件費の七・五割、公債費の六・九割、扶助費の二・八割、維持補修費の二・四割の順になっています。(図2歳出の状況を参照)

なお、五十四年度に予定されている主な事業概要は上記のとおりです。

第二回町議会最終日の三月十九日、小松与惣雄総務委員長は、三月十三日に同委員会に付託された昭和五十四年度一般会計並びに各特別会計予算案の審議経過を報告、それぞれを万場一致で原案どおり可決しました。

住民福祉の向上に努力を

総務委員長
報告概要

去る三月十三日
総務委員会に付託
された昭和五十四
年度一般会計予算
並びに各特別会計
予算の審査は、内
容については関係
常任委員会との連
合審査とし、町当
局の説明を求め、
慎重に審査した。

しかしながら、今後の経常支出の増加は免れず、特殊財源に恵まれない本町は、財政の硬直化の傾向がみられる。現時点では心配なしとしながらも、正確かつ適格なる財政計画のもとに執行され、住民の福祉向上に一層努力されることを申し上げる。

本予算を審査するに当り、各常任委員会の意見もあつたが、昭和五十四年度一般会計歳入歳出十九億二百九十二万二千元、各特別会計予算案を原案どおり決定することにした。

次に意見として多少述べる。

民生・衛生・消防

衛生費関係については、火葬が一般化し、町内の場合ほぼ一〇〇パーセント火葬場を利用している実態のなかで、火葬場の従事者対策が将来の大きな問題であると考えられる。

消防費関係では、議会議員など、特別職の報酬引き上げが五十三年度も行われたが、非常備消防団員の報酬等も引き上げが必要と考える。

郡内各市町村の実情を調査の上、遜色のない額まで引き上げるよう希望する。

農林水産業等

一、農林水産業費については諸制度を充分に取り入れた町民の行政需要に対応しうる発展的予算として歓迎するものであり、事業施行にあたっては慎重に対処されるよう希望する。

二、出かせぎ対策については当局において鋭意努力されていることに敬意を表する。本荘由利出かせぎ組合補助金については、その組合の性格、事業内容等を充分検討した上で交付すること。

三、大台地区で行ってきた養蚕経営の見直しと合せ、畜産振興を含めた地区の総合的開発振興について再検討せられたい。

四、二次構で導入した農業近代化事業のうち、農業機械導入集団について、ライスセンタールとは密接な関係があり、

教育

すでに他施策により導入した集団をも含め、ライスセンタールの機能を充分に発揮させるためにも、一貫した利用体系の確立を図ると共に、本来の目的に沿うよう一段の指導を強化すべきである。

五、八塩山麓開発については、昭和五十三年度郡市議員大会で出羽丘陵開発計画の一環として行うよう要望してきているが、八塩山を中心とする道路網の計画が検討されている折、道路を線とするならば面にある部分の見直しを図ると共に、山林、原野、農地等を含めた総合的開発計画を樹立すべきである。

六、マッシュルームの栽培農家に対する助成については前向きに考慮されたい。

七、肉用牛飼養頭数が年々増加していくなかで、人工授精師の養成が計画されているが、これには、将来本町に定着し、この事業に精進出来る人を養成するよう希望する。

八、昭和五十四年度予算において、家畜のし尿処理計画がなされているが、バキュームカーの購入後の使用、し尿処理槽設置後のし尿散布等、運営については充分検討し事業施行に当るよう強く希望する。

水道特別会計

東由利水道特別会計予算に、未給水地域の水道促進調査費が計上されているが、かねてから強い要望が寄せられていた東由利水道の拡張による未給水地域（松柴、法内、宿、下吹）への給水のため、是非とも五十五年度中には拡張工事に着手されるよう強く要望する。

数十年前の暖冬異変とかで、屋根の雪降しを一度もすることなく、楽に暮らした？冬に別れを告げ、桜前線北上中の便りも聞ける、春四月を迎えた。

官庁や会社などは新会計年度に、学校は新学期に入り、新年とはまた違った意味で気持ちを新たにするものがある。

今年、四年に一度の統一地方選挙の年。

今月八日には知事、県議の選挙、また夏には、町民にとって最も身近で大切な、町長選挙並びに町議会議員補欠選挙がそれぞれ行われる。

ある人は、

「選挙は、人間を入札にかけるようなもの……」と言ったとか。

有権者としては、私利私欲にとらわれず、公平な立場に立ち、住民の幸せを考え、明るく豊かな未来を建設すべく頑張ってくれ人を「落札」したいと願うもの。

そのためには、キケンすることなく、みんなが冷静に悔いのない「貴重な一票」を投じなければならぬ。

一滴

五十三年度 二十二億三千百万円に 一般会計

小野 収入役を再任

今回の議会で可決された、昭和五十四年度予算関係以外の議案の概要は次のとおり。

【昭和五十三年度東由利町一般会計補正予算（第八号）】

歳入歳出予算にそれぞれ七百七十七万一千円を追加し、総額をそれぞれ二十二億三千百万円としたもの。

【昭和五十三年度東由利町簡易水道事業特別会計補正予算（第五号）】

歳入歳出予算にそれぞれ三十万七千円を追加し、総額をそれぞれ二千六百二十九万九千円としたもの。

【収入役の選任について】

三月十四日をもって任期満了となる収入役に、宿字穴沢二十一の三、小野丹左衛門氏（六十一歳）を再任した。二期目。

【固定資産評価審査委員会の

委員の選任について】

同委員会の委員三名のうち、三月三十一日をもって任期満了となる一名に、蔵字新田七十二、木島節造氏（六十六歳）を再任した。

【東由利町中小企業振興基金条例の一部を改正】

町中小企業振興基金の額を、現行の二百万円から四百万円に改正した。

【議会の議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正】

議員が招集に応じ、又は委員会に出席するため旅行した場合の旅費額を改正したもの。

【特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正】

各種委員会委員などの報酬及び旅費額を改正したもので、報酬月額、教育委員長が一

万円、同委員が八千円、選挙管理委員長が八千円、同委員が六千五百円、農業委員長が一万円、同委員が八千円、監査委員の知識経験を有する者から選任された者が一万円、議員から選任された者が九千円、公民館長が十万円、社会教育指導員が六万円以内等。

【選挙長等に関する報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正】

選挙長等が職務のため旅行した場合の旅費額を改正したもの。

【東由利町教育研究所設置条例について】

学校教育に関する調査研究及び教職員の研修を行い、町学校教育の振興を図るため、「東由利町教育研究所」を老方字台山三十六番地に設置した

もの。

【東由利町国民健康保険条例の一部を改正】

国民健康保険が支給する葬祭費を三万円としたもの。

【東由利町社会教育委員に関する条例について】

社会教育法の規定に基づき、社会教育委員を置くことにした。

【土地改良総合整備事業に係る全体調査設計費の賦課基準を定めることについて】

昭和五十三年度施行の土地改良総合整備事業に係る全体調査設計費の賦課基準並びに徴収の時期及び方法を次のとおり定めた。

一、事業施行地区

・宮上地区（宮ノ前・上里）

・法内地区

二、負担金の賦課基準

受益地の地積割

三、負担金の徴収方法

金銭をもって普通徴収

四、負担金の徴収時期

町長が別に定めた期日

【町道の認定について】

町道を次のとおり認定した。

路線名	起点	終点	延長	員
台山路	老方字	前谷地	三・二六五	メートル
西山線	老方字	蔵字藏	二・六〇七	メートル
支線	老方字	蔵字藏	一・九〇七	メートル
大平線	湯ノ沢	湯ノ沢	五・〇〇〇	メートル
支線	湯ノ沢	湯ノ沢	四・〇〇〇	メートル

【県営土地改良事業に対する費用の一部を負担することに

ついて】

昭和五十四年度以降において施行の根小屋地区県営土地改良事業における費用の一部について、次のとおり負担するものとした。

一、路線名 根小屋線（根小屋二期）

二、事業量

・延長 二、四八〇メートル

・車道巾員 五・五メートル

三、事業費の負担割合及び負担額

昭和五十四年度から五十六年度まで毎年度予算の定めるところにより、暗渠排水、圃場整備、農道整備、用排水路工、等の土地改良総合整備事業を施行するものとした。

担額

・割合 工事費の十五分の

・額 一五、六六七千円

【須郷地区団体営農道整備事業の施行について】

同事業を次のとおり施行するものとした。

一、事業施行年度

昭和五十四年度から五十六年度まで、毎年度予算の定めるところによる。

二、事業の概要

・事業費 八四、〇〇〇千円

・事業量 延長一、三八二メートル

・車道巾員四・〇メートル

三、負担割合

・国庫補助 四二、〇〇〇千円（五〇割）

・県費補助 一二、六〇〇千円（十五割）

・町負担金 二九、四〇〇千円（三十五割）

国民年金のかけ金

四月 三、三〇〇円に

付加年金のかけ金は

今までどおり四百円

から

三、三〇〇円に

から



ふるさとに心をこめたい一票

知事
県議

選挙は4月8日です

みんなそろって投票しましょう！

選挙は、わたしたちの暮らしの願いを政治に反映させる最大のチャンスであり、わたしたちの一票は暮らしをよくするための貴重な「意思表示」です。

四月八日には、誰にも惑わされない正しい「一票」を使い、公正で明るい選挙を実現しましょう。

井の中
のか、わらずであ
つてはならな
い。同じよう
に、町に残つ
ている他町村
午後五時半過ぎ、老方バス
停に降りた一行をゼミ会員ら
が出迎え、車で朋楽荘へ。
夕食を済ませたのち、各グ
ループの活動状況や問題点な
どについて、約一時間にわた

翌八日、午前八時四十九分
思ひ出深い一夜を過した今金
町青年団一行は、町青年らの

見送りを受
け、次の研
修地に向け
て東由利を
あとにしま
した。

民泊交流
を終えた一
行は、

「…町外研
修はこれで
五回目だが
民泊は初め
て、少し心
配だったが
みんないい
人ばかりで
楽しかった。
このまま帰

るのが惜しい。機会を見てまた来たい。大変お世話になりました。今度は是非、今金町に来てもらいたい。また会える日を楽しみにしています」と、話していました。

また、他町村に出かけることの多かった本町の青年たちも、はるばる海をこえてきた青年の訪問を受け、明日からの活動に新たな意欲を燃やしていました。



北の国からコンニチハ
民泊で深めた交流

この海の向うからの訪問に、町では、農近ゼミ、連合青年会の会員三十名余が応対、寝食をともしながら、意義深い一夜を過しました。

町一般職の人事異動が、四月一日付で次のように発令されました。(一)内は前任職等。

中津川さん
(役場)
退職

長年役場の職員として精勤してこられた中津川俊雄さん（税務課主査）は、三月三十一日をもって停年退職されました。

中津川さんは、昭和二十一年十一月三十日に旧玉米村農地委員会書記に奉職されて以来三十二年余、主に農業委員会関係事務に従事してこれらこの間、農業構造改善係長、議会事務局長を歴任、昭和五十年四月からは公共用地地籍整備担当として道路敷地等の整理登記事務に手腕を発揮されていました。

長い間、本当にご苦労さまでした。

東蔵	中小
おばさん	おじさん

おじさん、おばさんとして子どもたちからはもちろん、広く地域の人たちからも親しまれてきた東由利中の遠藤三郎さん、遠藤アヤ子さん、蔵小の遠藤スツエさんは三月三十一日で停年退職されました。三郎さんは昭和三十年十一月に旧玉米中の用務員となつて以来二十三年余、アヤさんは昭和四十四年四月から十年間、スツエさんは昭和三十七年から十七年余、それぞれ長い間、誠実誠意をもって勤務され、その献身的な奉職に

●企画室 ▽企画係長 中西藏之助（産業經濟課振興係長兼農業構造改善係長）
▽農村モデル事業計畫担当 伊東正志（建設課建設係）
▽広報担当 小松慶悅（總務課總務係）
●總務課 ▽財政係長 阿部力（稅務課賦課係長）
▽總務係 小松信記（任用）
●稅務課 ▽賦課係長 佐藤貢（出納室出納員） ▽賦課係 阿曾文彦（住民課保險衛生係）
●住民課 ▽保險衛生係 小松敏（産業經濟課產業係）
▽住民厚生係 小松英治（任用）
●産業經濟課 ▽產業係長 兼農地主事 畠山正美（農業委員會農地主事） ▽產業係 小野長松（住民課住民厚生係） ▽振興係 安倍秋雄（產業係）
●建設課 ▽庶務係長 菅原賢治（總務課財政係長）
▽工務係長 小松与一郎（建設係長） ▽工務係 小松聖明（任用）
●出納室 ▽出納員兼會計係 柏原慶子（會計係） ▽會計係 猪股寿和（總務課總務係兼財政係）

転作面積昨年と同じ79ヘクタール

計画転作は30集団を目標

転作面積は昨年と同じ七十九ヘクタール、通年施行面積四十八ヘクタール、計百二十七ヘクタール。去る一月三十日の全県市町村助役会議の席上、五十四年度転作等目標面積が県から町に仮配分されました。

町ではこれを受けて三月八日、水田利用再編対策協議会を開き、五十三年度の実績等を参考に五十四年度対策等について検討してもらい、その結果をもって三月二十四日には町開発センターに、自治会長、協同班長、共済部長を招集し自治会代表者会議を開催しました。

会議では、配分方針や推進方法などの説明を行い、各自自治会ごとに転作目標面積を示し、協力を要請しました。

県野菜価格安定基金協会に加入

① 転作目標面積は、五十三年度配分面積とするが、基礎水田面積に移動があった場合は調整する。但し、この場合でも目標転作率は昨年と同じ〇・〇六四四一九〇〇一とする。

② 農家別配分は、昨年同様自治会に仮配分し、自治会内で最も有利な転作計画を協議、調整してもらった上で個人別に正式配分する。

町では、転作物の定着化を図り、安定した複合経営の確立を目ざして、「大豆」「飼料作物」「すいか」「かぼちゃ」「ニンニク」を重点作物に選定するとともにその作付推進に当たっては、

① 作物別に、昨年作付けした農家の反省会を行う。

② 転作野菜作付け推進座談会を行う。

会を行う。

③ 重点作物等の栽培技術のしおりを作成するとともに、展示圃（試作圃）を設置する。

④ 県野菜価格安定基金協会に加入する。（かぼちゃ、ニンニクが該当）

⑤ 作物別の講習会を開催するとともに、ポイント時期には巡回指導を行う。

このほか、「転作条件整備事業」「簡易サイロ設置事業」「計画転作団地化育成事業」の町単独補助事業を昨年に継続して行ない、個々の経営形態に適した作物選定をするよう指導を加えるとともに、積極的転作を図り、五十ヘクタールに当る三十集団を目標に、有利な「計画転作」実施に結びつけたいとしています。

福祉の窓

●制度の目的

愛護会は、交通事故、労働災害、又は自然災害によって保護者を失った児童（義務教育終了前）の心身ともに健全な育成を図ることを目的として、次のような事業を行うところである。

災害遺児愛護会

心身ともに健全な育成を

一、災害遺児に対して見舞金、激励金、又は入学及び進学祝金、就職祝金の支給に関する事業

(1)、見舞金 災害で死亡したとき、二万円

遺児一人につき四千元以内

(4)、卒業祝金 遺児が義務教育を終了したとき 一人につき八千円以内

●災害遺児愛護会の人格等

愛護会の名称は「財団法人秋田県災害遺児愛護会」とい、事務所は秋田県児童会館内にあります。

●受給申し出続等（窓口）

給付金を受けようとする者は、「災害遺児援護給付金受給者申し出書」を提出することになっています。

町では、住民課住民厚生係が窓口となっています。

※このコーナーでは、様々な福祉制度の概要について紹介しています。詳しい内容については知りた方は、役場住民厚生係にお尋ね下さい。

関係者から深く感謝されています。三人とも本当にご苦労さまでした。

教職員異動

県教職員の定期異動は三月二十四日に発表され、本町関係では次のとおり異動になりました。

（一）内は前任校等。◎印は校長、○印は教頭。

●小・中学校

住吉小 佐々木晶子（講師）

玉米小 佐藤正治（新山小）・佐々木純子（養護助教諭）

老方小 ◎佐藤信（象潟小）・佐藤征三（石沢小）

越川勝彦（講師）

蔵小 ○三浦ミヤ（新山小）・武田千代（小友小）

加賀美弘美（任用）・池田東吾（任用）

宿小 ◎斎藤治三郎（上川大内小）・阿部徳四郎（百宅小）・佐藤清男（亀田小）・佐藤トキイ（金浦中）・今野儀工門（住吉小）

安藤純（講師）

東由利中 ○畠山悟（象潟中）・阿部重夫（石沢中）・大坂保（出羽中）・小島知子（任用）・佐藤智子（任用）・山崎博樹（任用）

転出

退職 小松妙子（玉米小）

・斎藤辰四郎（宿小）・藤本セツ（宿小）・石黒照（宿小）

転出 今野儀工門（住吉小）宿小へ・小松幸子（住吉小）

高尾小へ・斎藤ヒサ（玉米小）岩谷小へ・志村広志（老方小）西目小へ・工藤勝子（老方小）小友小へ・渡辺一郎（老方小）秋大附属養護学校へ

・遠藤重和（蔵小）上浜小へ・今野悦子（蔵小）鶴舞小へ・奥村タツエ（蔵小）新山小へ・伊藤純雄（宿小）上浜小へ・相原博（宿小）鶴舞小へ・加藤義昭（宿小）追分小へ・須田信吾（東由利中）

西沢小へ・佐藤新一（東由利中）西目小へ・沢田清司（東由利中）西目中へ・佐々木康三（東由利中）由利中へ・青木栄子（東由利中）由利中へ・田口靖一（東由利中）石沢中へ・猪股とみ子（東由利中）西目中へ・榊忠行（東由利中）北内越小へ

●本庄高校下郷分校

転入

○小野弘三（雄物川高から）池田みつ子（講師）・佐藤みどり（講師）

転出

○榊田三郎（由利高へ）・菊地富美子（花輪高へ）

春の火災予防運動

4月1日～7日



町の概要

人口総数	6,431人
うち男	3,163人
うち女	3,268人
世帯数	1,467戸
面積	148.51km ² (54.3.1)

町農近が農林水産大臣表彰
ゼミ

農業総合
指導センター
には感謝状

本町農業近代化ゼミナール
(阿部弥松会長、会員二十六名)は、二月二十八日から三
月二日までオリンピック記念



全国的に注目をあびている「お早うほ場」(昨年のスイカ定植作業)

電話異動のお知らせ
東由利電報電話局

加入者氏名	☎	設置場所	異動種類
畠山俊哉	3908	袖山	転出
鈴木昭一	3661	大琴	〃
大平スキー場	3516	下吹	改番
佐藤力蔵	2152	跡見坂	〃
遠藤吉助	3809	大琴	譲受
東由利農協 給油センター	2460	両前寺	新設
小松良竹	2815	下小路	〃(キャビ)
〃(病院)	2531	〃	新設
畠山蔵太郎	3518	新町	〃(ピンク)
蔵集落センター	2864	蔵	〃(赤)
黒淵集落センター	2869	黒淵	〃(赤)
協栄ホーム	3610	久保	〃(ピンク)
古谷清一	3818	新町	新設
大竹久昭	3029	上通	〃
志村惣一郎	2829	新町	廃止(赤)
小松マサヨ	2834	田代	〃(赤)
東北電力	2505	新町	廃止
小松昭作	2323	下小路	承継
佐々木智	3947	大琴	転出
畠山ミヨエ	3008	中通	〃

◎電話移転の申し込みは、少なくとも希望
する日の2週間前に連絡を!!

今回の大臣表彰も、こうし
た実践活動が全国的に認めら
れたものです。
また、町農業総合指導セン

ター(小松民三郎所長)には、
農村青少年農業研究集団育成
協力機関等三十一団体の一つ
として、全国農村青少年教育
振興会長から感謝状が贈られ、
関係者は二重の喜びに浸って
います。
表彰状を手にした阿部会長
は、

「...会員一同心から喜んで
います。これも諸先輩や関係
機関のご指導のお陰です。今
後は、この表彰状を恥ずかし
めることのないよう、東由利
に生きる青年として尚一層頑
張りたいと思いますので、よ
ろしく願います。」
と、受賞の喜びを話していま
した。
激動する農業情勢下におい
て、将来の東由利を担う若者
に与えられた大臣表彰の意義
は深く、今後の活躍が期待さ
れます。

交通事故防止に
黄色い帽子92個
交通事故はもちろん、あら

善意
玉米小に雑巾12枚
町連合婦人会館合支部
(小野京子支部長)では
先ごろ玉米小学校に雑巾
一二枚を贈り、喜ばれ
ています。
.....
宿地区老クに
アンマ器1台
大琴の佐々木智さんは
先ごろ宿地区老人クラブ
にアンマ器一台を贈り、
喜ばれています。

山火事を
防止しましょう
※火入れをする時は必ず町長の許可を受けましょう
山では
タバコ
に気をつけましょう

慶弔
2月21日〜3月20日

誕生
おめでと

佐藤和美 泡ノ瀬 政雄 二女
遠藤みゆき 館西 幸男 長女
畠山広喜 大吹川 顕悟 三男
高橋佐和子 泡ノ瀬 健一 長女
畠山智子 新町 久憲 二女

結婚
おしあわせに

小松 操一 宮ノ前
畠山 信子 寺田

・お悔み申し上げます
横山市重郎 向田 68歳
小野 要蔵 寺田 75歳